

口蹄疫とは

阿蘇市経済部農政課

「口蹄疫」は、牛・豚・めん山羊など偶蹄類（蹄が二つある動物）のみに感染する極めて伝染力の強いウイルスによる病気で、日本では海外悪性伝染病に指定されています。

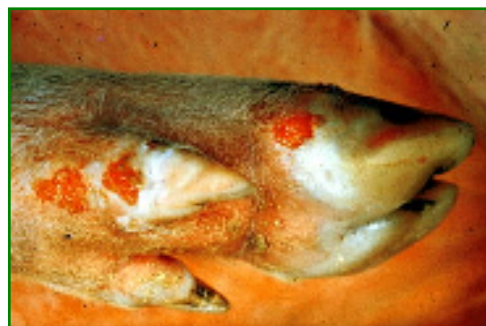
「口蹄疫」は、牛、豚等の偶蹄類の動物の病気であり、**人に感染することはありません**。また、感染牛の肉が市場に出回ることはありませんが、仮に感染牛の肉を摂取しても人体には影響ありません。

1 発生状況

日本では、2000年に宮崎において92年ぶりに確認されました。世界では、韓国他に、2007年に英国、2009年に台湾・中国で発生しています。

2 主な症状

- ① 著しい流涎（よだれ）、体重や乳量の減少。
- ② 舌、唇、歯ぐき、ツメの間、乳頭に水疱（みずぶくれ）を形成。
- ③ 水疱は、数日で破れ、ただれたようになる。
- ④ 死亡率は5%程度（幼若な家畜では50%）
- ⑤ ただれた部分に痛みを伴い、採食不能、起立不能から廃用又は死亡するなど経済的被害が甚大なものとなります。



3 感染経路

口蹄疫ウイルスに感染した家畜との接触、汚染された飼料（稲わら）、敷料などすべてのものが感染源となります。

4 予防対策

- ① 口蹄疫を疑う異常家畜を発見した場合、診療獣医師あるいは家畜保健衛生所に連絡すること。
- ② 輸入の稲わら、乾草などの使用は可能な限り避けること。
- ③ 農場、畜舎の出入り時の車両、長靴、作業服などの消毒を十分行うこと。
- ④ 家畜の状態をよく観察すること。
- ⑤ 残飯を給与する場合は、十分加熱すること。
- ⑥ 畜産関係者は、発生地域への農場視察旅行などは避けること。